



# 国立公園満喫プロジェクト 2026年以降の取組方針（案） 概要

2026年3月9日（月）  
環境省自然環境局国立公園課

## ① 基本的な方針

## 背景

※前回からの主な修正箇所を赤字

- 「2021年以降の取組方針」に基づき、自然公園法改正、国内誘客の強化、全国立公園の底上げ・取組の水平展開、ステップアッププログラムを策定した公園における集中的な取組等を進め、2024年にはコロナ前までの利用者数に概ね回復。
- 一方で、「世界水準」のブランド化や滞在体験の魅力向上等については**道半ば**であり、多言語対応や利用拠点における廃屋対策や、担い手・二次交通の確保など、**地域一体で対応すべき課題が残存**。
- 近年、都市部等を中心に観光客が集中しており、一部国立公園でも混雑・マナー問題が発生。**地方部の重要な地域資源である国立公園を核とし、地方誘客・需要分散に貢献していくことの重要性が一層高まっている**。

## 基本的な方針

## 2016年から開始した国立公園満喫プロジェクトの総仕上げに向け、取組を加速化

1 国立公園ならではの魅力的な滞在体験の提供

- **感動体験の提供を柱とした滞在型・高付加価値観光を推進する**。関連予算や民間提案を踏まえた制度の柔軟な運用により、民間投資を促進し、魅力的な滞在環境の実現を図る。
- **多言語対応や二次交通等の満足度が低い事項の改善等について地域関係者とも連携して取組を進める**。
- 地域が主体となった取組を活性化させるため、**民間の実施主体・関係地方公共団体への協力・支援を実施**。

2 地域・来訪者双方にとっての国立公園のブランド力の向上及び国内外へのプロモーションの強化

- 国内外からデスティネーションとして選ばれるため、日本の国立公園のブランド力向上を図る。
- 多様な主体と連携・協力・役割分担の上、戦略的かつ効果的にプロモーションを行う。

3 国立公園の保護と利用の好循環の実現による地域への貢献

- **保護への再投資に繋がる利用者負担の取組を促進**、自然資源劣化への対策や環境負荷低減を図る。
- **利用拠点・施設、活動による環境負荷の低減**を図り、地域の持続可能性を高める。
- 国立公園内の長期滞在を促し、地域資源に対する支出を増やすことで、**地域内経済循環に貢献**。

4 横断的事項 (基本的視点)

- **最大の魅力は自然そのもの／人の暮らし・文化・歴史を有する自然との共生の姿／「体積」で考える／幅広い利用者層に対応／広域的な視点／サステナビリティ**

**国立公園制度創設100周年を迎える2031年に向け、地方への人の流れを力強く促し、国立公園を地域の誇りとなる世界水準のデスティネーションとすることを目指す。**

## ② 具体的なアクション

## 具体的なアクション

## 1 国立公園ならではの魅力的な滞在体験の提供

先端モデル事業の実施・ 全国への展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>利用者の観光動線等も踏まえ</b>、利用拠点の魅力向上と自然体験の充実を図り、滞在型・高付加価値観光を推進</li> <li>● <b>先端モデル事業実施対象公園を中心に取組を推進し、その知見や成果をまとめた上で、全国に展開</b></li> <li>● 民間投資の更なる促進に向け、関連制度の活用や民間提案を踏まえた制度運用・計画の見直しを検討</li> <li>● <b>新たな廃屋化の未然防止の在り方についても検討</b></li> </ul>
自然の魅力を活かすための 景観改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>廃屋撤去や通景伐採等を通じて、自然景観の魅力を活かし、利用者が快適に滞在できる環境を実現</b></li> </ul>
感動体験の創出	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 国立公園の魅力的な自然環境を基盤とした感動や学びを提供するため、<b>自然体験アクティビティやツアー（アドベンチャー・トラベル等）の開発、地域のルール作り等に対する支援</b>を実施</li> </ul>
利用者受入れのための 環境整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 混雑・マナー違反への対応や案内機能の強化、ビジターセンターの魅力向上、利用施設の老朽化対策、地域交通改善、担い手確保等の課題に対して、<b>地域協議会等の枠組みを活用し、関係機関・団体と連携して改善を推進</b></li> </ul>
民間主体・地方自治体への支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域の主体性を発揮するため、<b>民間の取組主体や地方公共団体との連携・支援を強化</b></li> </ul>

## 2 地域・来訪者双方にとっての国立公園のブランド力の向上及び国内外へのプロモーションの強化

インナーブランディングの強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>● インタープリテーション計画の策定等を通じた<b>インナーブランディングの強化</b></li> </ul>
プロモーションの強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>公園の特徴を踏まえた</b>戦略的なターゲット設定を行い、関係機関と連携の上、効果的かつ効率的なプロモーションを実施</li> <li>● <b>国立公園オフィシャルパートナー等、多様な主体との連携も強化</b></li> </ul>

## 3 国立公園の保護と利用の好循環の実現による地域への貢献

自然資源の維持・向上に 向けた取組の促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 利用者負担の仕組みづくりを通じて、<b>保護への再投資を実現</b></li> <li>● 自然資源の劣化に対し、利用集中や気候変動等の影響を踏まえた防止策・改善策を講じる</li> </ul>
環境負荷低下に向けた取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 省エネ・脱炭素、脱プラスチック、地産地消等の取組を推進し、<b>環境配慮型の受入環境整備を促進</b></li> </ul>
地域資源との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 文化財や地場産品などの<b>地域資源と連携した包括的なプログラムの造成等、地域全体の魅力向上を推進</b></li> </ul>

## 取組加速化のための枠組み

- 全ての国立公園で統一した意識のもと、本省において進捗把握を行いながら、プロジェクトを推進
- 有識者会議による助言体制を整備し、全国と地域の連携を強化
- 地域協議会等を協創の場として機能が発揮されるよう、**推進体制の見直し・改善を図る**
- 地域コーディネーターの育成や、**地域主体の事業への重点支援**を検討
- 法制度と補助制度の連携を強化し、一貫した環境整備・利用促進を推進
- **各公園のベストプラクティスを取りまとめ、他公園で効果的・効率的な取組を展開**
- 国定公園・ロングトレイルについても、ポテンシャルや受入体制を踏まえ、**基盤整備や情報発信を支援**

## ③ 目標及び指標

## 目標・指標

- 以下のとおり量及び質に関する指標を設け、毎年度、進捗と課題を整理・評価を行い、達成状況等に応じて必要な見直しを行う。

次期取組方針における目標 (案)	【2030年】 ＜青字：2024年実績＞ ＜赤字：2025年実績＞	【2025年まで】 ＜参考＞ 現行の取組方針の目標	【2030年】 次期観光立国推進 基本計画（素案）の関連目標
<b>国立公園における訪日外国人に関する指標</b>			
1. 訪日外国人利用者数	1,400万人 ＜844万人＞ ＜988万人（推計値・速報値）＞	コロナ禍前同等値 （667万人）	6,000万人 ＜3,687万人＞ ＜4,268万人（推計値）＞
2. 延べ宿泊者数	1,600万人泊 ＜619万人泊＞	コロナ禍前同等値 （国内・国外計3,744万人）	1.3億人泊 （地方部延べ宿泊数） ＜5,086万人＞
3. 推奨意向【新】	90% ＜81%＞ ＜78%＞	設定なし	—
4. 来訪前の国立公園の認知割合【新】	80% ＜64%＞ ＜58%＞	設定なし	—
5. 国立公園を訪れた訪日外国人の平均消費額【新】	30万円 ＜27.0万円＞ ＜26.3万円（速報値）＞	設定なし	25万円 ＜22.7万円＞ ＜22.9万円（速報値）＞
<b>国立公園における日本人に関する指標</b>			
6. 延べ宿泊者数	3,200万人泊 ＜2,932万人泊＞	コロナ禍前同等値 （国内・国外計3,744万人）	3.2億人泊 （地方部延べ宿泊数） ＜3.1億人泊＞
7. 推奨意向【新】	80% ＜63%＞ ＜60%＞	設定なし	—
8. 来訪前の国立公園の認知割合【新】	80% ＜62%＞ ＜61%＞	設定なし	—

- 地域経済循環に関する指標については引き続き検討
- 取組状況を把握するためのアウトプット指標を設ける
- 各公園ごとの地域別目標を設け、各ステップアッププログラムに位置付ける